

59 海港ノ国際制度ニ関スル条約及規程 (抄)

勅力 署名 一九二三年二月九日(ジュネーヴ)
 効力発生 一九二六年七月二十六日
 日本国 一九二六年八月四日批准、九月三〇日批
 准書寄託、一〇月二八日公布(条約第五
 号)、一二月二九日効力発生

独逸国(以下締約国名略)ハ、
 其ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル海港ニ於テ、國際貿易
 ノ為ニ一切ノ締約國ノ船舶、其ノ積荷及旅客ノ間ニ
 均等ナル待遇ヲ保障スルコトニ依リ、國際聯盟規約第
 二三条ホニ掲クル交通ノ自由ヲ成ルヘク完全ニ確保セ
 ムコトヲ希望シ、
 右目的ヲ達成スルノ最良方法ハ、成ルヘク多数ノ國
 力後日加入シ得ヘキ一般の条約ニ依ルニ在ルコトヲ思
 ヒ、

又一九二二年四月一〇日「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラ
 レタル會議ハ、國際聯盟ノ理事会及總會ノ承認ヲ經
 テ該聯盟ノ權限アル機關ニ送付セラレタル決議ニ於テ、
 平和條約中ニ規定セラルル交通制度ニ関スル國際條約
 力成ルヘク速ニ締結セラレ且實施セラルヘキコトヲ要
 求シタルニ依リ、又「ヴェルサイユ」條約第三七九条及
 其ノ他ノ條約中ノ对当条項ハ、港ノ國際制度ニ関スル
 一般の條約ノ作成ニ関シ規定スルニ依リ、
 一九二三年一月一日「ジュネーヴ」ニ於テ開催セ
 ラレタル會議ニ参加スルコトニ関スル國際聯盟ノ招請
 ヲ受諾シ、

右會議ニ於テ採択セラレタル港ノ國際制度ニ関スル
 規程ノ条項ヲ實施シ、且此ノ目的ノ為ニ一般の條約ヲ
 締結スルコトヲ希望シ、締約國ハ、左ノ如ク其ノ全權
 委員ヲ任命セリ。

(全權委員名略)

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ、之カ良好妥當ナルヲ認メタル後、左ノ如ク協定セリ。

第一條 附屬規程ノ受諾 締約國ハ、一九二三年一月五日、ジュネウヰニ於テ開催セラレタル交通及通過ニ關スル第二回總會ニ依リ採択セラレタル本條約附屬ノ海港ノ國際制度ニ關スル規程ヲ受諾スルコトヲ宣言ス。

右規程ハ、本條約ノ一部ヲ構成スルモノト認メラルヘシ。

從テ締約國ハ、同規程中ニ定ムル條項及條件ニ從ヒ、同規程ノ義務及約定ヲ受諾スルコトヲ茲ニ宣言ス。

第二條 (第一〇條 略) 規程

第一條 (海港ノ定義) 航海船ノ平常出入シ、且外國貿易ノ為使用セララルル一切ノ港ハ、本規程ノ意味ニ於テ海港ト認メラルヘシ。

第二條 (船舶等ノ均等待遇) 相互主義ノ原則ニ從ヒ、且第八條第一項ニ掲ケル留保ノ下ニ、各締約國ハ、其ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル海港ニ於テ、該海港ヘノ出入ノ自由及該海港ノ使用ニ關シ、並船舶、其ノ積荷及旅客ニ右締約國ノ許与スル航海上及商業經營上ノ利益ノ完全ナル享有ニ關シ、他ノ締約國ノ船舶ニ對シ、自國船舶又ハ他ノ何レカノ國ノ船舶ニ許与スルト均等ナル待遇ヲ許与スヘキコトヲ約ス。

斯ク確立セラレタル均等待遇ハ、碇泊地点ノ振當、荷積上及荷卸上ノ利益ノ如キ一切ノ種類ノ利益並政府ノ官公署、特許事業者若ハ各種企業ノ名ニ於テ又ハ其ノ計算ニ於テ課セラルル一切ノ種類ノ税金及料金ニ及ブヘシ。

第三條 (港務處理ノ措置) 前條ノ規定ハ、權限アル港ノ官憲力港務ノ適宜ナル處理ノ為ニ便宜ナリト認ムル措置ヲ執ルノ自由ヲ何等制限スルモノニ非ス。但シ右措置ハ、同條ニ規定セララルル均等待遇ノ原則ニ適

合スルモノトタルヘシ。

第四條 (税金) 海港ヘ使用ニ對シ課セラルル一切ノ税金及料金ハ、其ノ實施前適當ニ之ヲ公表スヘシ。前項ノ規定ハ、港ノ内規及規則ニ之ヲ適用スヘシ。各海港ニ於テハ、港ノ官憲ハ、現行ノ税金及料金ノ表並内規及規則ノ寫ヲ備ヘテ一切ノ利害關係者ノ閱覽ニ供スヘシ。

第五條 (關稅等ノ差別待遇禁止) 締約國ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル海港ニ依リ貨物ノ輸入又ハ輸出ニ對シ課セラルヘキ關稅及其ノ他ノ類似ノ稅、地方入市稅若ハ消費稅又ハ附帶的課金ノ決定及適用ヲ為スニ付テハ、船舶ノ國籍ハ、之ヲ考慮ニ入ルヘカラス。從テ締約國中ノ何レカノ國ノ船舶ノ不利益ト為ルヘキ何等ノ差別ハ、右船舶ト港ノ上ニ主權若ハ權力ヲ有スル國ノ船舶又ハ其ノ他ノ何レカノ國ノ船舶ト間ニ於テ、之ヲ設クルコトヲ得ス。

第六條 (鐵道ノ國際制度ニ關スル條約ノ適用) 第二條ニ規定スル海港ニ於ケル均等待遇ノ原則カ海港ヲ使用スル締約國ノ船舶ニ對スル他ノ差別方法ノ採用ニ依リテ實際上無効ナラシメラルルコトナカラス。從テ各締約國ハ、其ノ一九二三年二月九日、ジュネウヰニ於テ署名セラレタル鐵道ノ國際制度ニ關スル條約ノ當事國タルト否トヲ問ハス、該條約附屬規程ノ第四條、第二〇條、第二一條及第二二條ノ規定カ海港ニ到リ又ハ之ヨリ發スル運輸ニ適用セラレ得ル限リ、之ヲ適用スヘキコトヲ約ス。前記諸條ハ、右條約ノ署名議定書ノ規定ニ從ヒ之ヲ解釈スヘシ(附屬書參照)。

第七條 (海港) 海港ト他ノ境界でノ關稅特別ナル地理上、經濟上又ハ技術上ノ特殊狀態ニ基キ理由ノ如キ例外ヲ設クルノ正當ナル特別理由アル場合ヲ除ク外、締約國ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル海港ニ於テ課セラルル關稅ハ、同國ノ他ノ關稅境界ニ於テ同一種類ニ屬シ同ラ發送地ヨリ來リ又ハ同一到達地ニ到ル貨物ニ課セラルル關稅ヲ超ユルコトヲ得ス。

締約國ノ一カ貨物ヲ輸入シ又ハ輸出スル他ノ通路ニ於テ前記ノ特別理由ニ依リ關稅上ノ特別利益ヲ享受スルトキハ、同國ハ、其ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル海港ニ依リ輸入又ハ輸出ニ對スル不公正ナル差別ノ手段トシテ該利益ヲ使用スルコトヲ得ス。

第八條 (均等待遇ノ便益停止) 締約國ノ各埠頭ヨリ自己ノ船舶、其ノ積荷及旅客ニ對シ本規程ノ條項ヲ自己ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル海港ニ於テ有効ニ適用セラル國ノ船舶ニ對シ、外交手續ニ依リ通告ヲ為シタル後、均等待遇ノ便益ヲ停止スルノ權ヲ留保ス。前項ニ規定セル處置ノ執ラレタル場合ニ於テハ、処置司法裁判所ニ、書記宛ノ請求ニ依リ、出訴スルノ權利ヲ有スヘシ。同裁判所ハ、簡易手續ノ規則ニ從ヒ右事件ヲ解決スヘシ。

尤モ各締約國ハ、本條第一項ニ規定スル処置ヲ執ルノ權利ヲ拋棄スル旨ノ宣言ヲ為スコトアルヘキ他ノ國ニ對シ、右処置ヲ執ルノ權利ヲ拋棄スルコトヲ本條約ノ署名又ハ批准ノ際宣言スルノ權利ヲ有スヘシ。

第九條 (沿岸貿易ヘノ不適用) 本規程ハ、海上沿岸貿易ニ何等適用ナキモノトス。

第一〇條 (曳船業務) 各締約國ハ、第二一條及第四條ノ規定ニ違反セザル限リ、自國ノ海港ニ於ケル曳船業務ニ關シ、其ノ適當ト認ムル施設ヲ為スノ權利ヲ留保ス。

第一一條 (水先案内) 各締約國ハ、水先案内業務ヲ其ノ適當ト認ムル所ニ從ヒ組織シ、且管理スルノ權利ヲ留保ス。水先案内力強合制ナル場合ニ於テハ、料金及提供セララルル利益ニ付テ、第二一條及第四條ノ規定ニ從フヘキモノトス。尤モ各締約國ハ、必要ナル技術的資格ヲ有スル自國民ニ對シ強制的水先案内ノ義務ヲ免除スルコトヲ得。

第二一條 (出移民運送) 各締約國ハ、自國法規ノ規定ニ從ヒ、移出民運送ノ右法規ノ要件ヲ充スモノトシテ特別許可ヲ与ヘラレタル船舶ノミニ局限スルノ

權利ヲ留保スル旨ヲ本条約ノ署名又ハ批准ノ際宣言スルノ權能ヲ有スヘシ。尤モ右權利ヲ行使スルニ付テハ、締約國ハ、能フ限り本規程ノ原則ニ從フヘシ。斯ク出移民ノ運送ヲ許サレタル船舶ハ、本規程ノ一切ノ利益ヲ一切ノ海港ニ於テ享有スヘシ。

第二三条 本規程を適用する船舶ハ、一切ノ船舶ニ對シテ其ノ所有者又ハ管理者ノ公私ヲ問ハス之ヲ適用ス。

尤モ本規程ハ、軍艦、警察上若ハ行政上ノ職務ヲ執行スル船舶、一般ニ何等カノ公權ヲ行使スル船舶又ハ國ノ海岸、陸軍若ハ空軍ノ爲ニ一時専用セラルル其ノ他ノ船舶ニ對シテハ、何等之ヲ適用セザルモノトス。

第一四條 漁船等へノ不適用 本規程ハ漁船又ハ其ノ漁獲物ニ何等適用ナキモノトス。

第一五條 条約による他國へノ特殊權利ノ付与 締約國カ他ノ國ノ領域ニ到リ又ハ之ヨリ來ル貨物又ハ旅客ノ通過ヲ容易ナラシムル爲メ條約、協約又ハ取極ニ基キ自國海港ノ一定区域内ニ於テ該國ニ對シテ特殊權利ヲ許シタル場合ニハ、他ノ締約國ハ、同様ナル特殊權利ヲ要求ヲ支持スル爲メ本規程ノ各項ヲ援用スルコトヲ得ス。

締約國タルト否トヲ問ハス他ノ國ノ海港ニ於テ、前記ノ特殊權利ヲ享有スル各締約國ハ、自國ト通商スル船舶、其ノ積荷及旅客ノ待遇ニ關シ本規程ノ各項ニ從フヘシ。

非締約國ニ前記ノ特殊權利ヲ許スル各締約國ハ、前記權利ヲ享有スルニ至ル國ニ對シ、許与ノ条件ノ一トシテ該國ト通商スル船舶、其ノ積荷及旅客ノ待遇ニ關シ本規程ノ各項ニ從フノ義務ヲ課スルコトヲ要ス。

第一六條 事變の場合の例外 締約國カ其ノ國ノ安全又ハ緊切ナル利益ニ影響スル事變ノ場合ニ於テ措置ニ已ムナキニ至リタル一般の又ハ特別の性質ノ措置ニ在リテハ、例外トシテ且成ルヘク短期間ニ限り、第

二條乃至第七條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得。但シ本規程ノ原則ハ、成ルヘク広キ範圍ニ於テ之ヲ遵守スルコトヲ要スルモノトス。

第一七條 輸入禁止貨物等の規制 何レノ締約國ト雖、公衆衛生若ハ公安ノ爲又ハ動植物ノ病疫予防ノ爲、其ノ領域内ニ入ルコトヲ禁止セラルル旅行者又ハ其ノ輸入ヲ禁止セラルル種類ノ貨物ニ對シ、通過又ハ許容スルノ義務ニ依リ負フコトナカルヘシ。

通過運輸以外ノ運輸ニ關シテハ、何レノ締約國ト雖、其ノ國法ニ依リ其ノ領域内ニ入ルコトヲ禁止セラルル旅行者又ハ之ニ依リ輸入若ハ輸出ヲ禁止セラルル貨物ノ輸送ヲ許容スルノ義務ヲ本規程ニ依リ負フコトナカルヘシ。

各締約國ハ、危險ナル貨物又ハ之ト類似ノ性質ヲ有スル貨物ノ輸送ニ關シ、必要ナル予防措置及自國領域ニ入り又ハ之ヨリ出ツル移民ノ取締ヲモ包含スル一般警察措置ヲ執ルノ權利ヲ有スヘシ。但シ該措置ハ、本規程ノ原則ニ反スル何等ノ差別ヲ齎スコトヲ得サルモノトス。

本規程ハ、締約國ノ一カ其ノ當事國タル又ハ今後締結セラルコトアルヘキ一般の國際條約ニ國際聯盟ノ主宰ノ下ニ締結セラルル條約ニシテ、婦人及兒童ノ売買ニ關シ又ハ阿片其ノ他ノ有害藥物、武器若ハ漁業產物ノ如キ特殊ノ物品ノ通過、輸出若ハ輸入ニ關スルモノニ從ヒ、或ハ工業所有權、文學的若ハ美術的著作權ノ侵害ヲ防止スルコトヲ目的トスル又ハ虚偽ノ標章、虚偽ノ原產地表示若ハ其ノ他ノ不正競争方法ニ關スル一般の條約ニ從ヒ、執ルコトヲ要スル措置ニ何等ハ影響コトヲ要スルコトアルヘキ措置ニ何等ハ影響コトヲ要ササルヘシ。

第一八條 本規程の戦時における適用 本規程ハ、戦時ニ於テケル交戰國及中立國ノ權利及義務ヲ規定スルモノニ非ス。尤モ本規程ハ、戦時ニ於テ右權利及義務ノ許ス限度ニ於テ其ノ効力ヲ持續スヘシ。

第一九條 本規程に抵触する諸条約の修正 締約國ハ、

一九二三年一月九日現行ノ諸條約ニシテ本規程ノ一項ニ抵触スルモノニ對シ、事情ノ許ス限り速ニ及如何ナル場合ニ於テモ右條約ノ終ラニ際シ、關係國又ハ關係地方ノ地理的、經濟的又ハ技術的事情ノ許ス限り、該條項ト調和セシムル爲メ必要ナル修正ヲ加フルコトヲ約ス。

右規定ハ、海港ノ全部又ハ一部ノ利用ニ付一九二三年一月九日以前ニ許与セラレタル特許ニ對シ適用セラルヘシ。

第二〇條 本規程以上の便益の許与 本規程ハ、本規程ニ規定セラルルモノヨリモ一層大ナル便益ニシテ海港ノ使用ニ關シ本規程ノ原則ニ合致スル条件ヲ以テ許与セラレタルモノノ撤廃ヲ何等齎スモノニ非ス。本規程ハ、又將來ニ於テ右ノ如キ一層大ナル便益ヲ許与スルコトヲ禁止ヲ齎スモノニ非ス。

第二一條 紛争の解決方法 第八條第二項ノ規定ヲ害スルコトナク、本規程ノ解釈又ハ適用ニ關シ締約國間ニ生スルコトアルヘキ紛争ハ、左ノ方法ニ依リ解決セラルヘシ。

直接ニ當事國間ニ於テ又ハ其ノ他ノ友誼的解決方法ニ依リ右紛争ヲ解決スルコト能ハサルニ至リタルトキハ、紛争當事國ハ、仲裁裁判手續又ハ司法的解決ニ訴フルニ先チ、交通及通過ニ關スル聯盟國ノ諮問及專門機關トシテ國際聯盟ニ依リ設置セラルル機關ニ、專門の意見ヲ徵スル爲、右紛争ヲ付託スルコトヲ得。緊急ノ場合ニ於テハ、仮意見トシテ、紛争ノ原因ト爲リシ行為又ハ事實ニ先チ存在シタル國際運輸上ノ便益ヲ恢復スルノ措置ヲ包含スル一時的措置ヲ勧告スルコトヲ得。

前項ニ掲ケタル手續中ノ何レニ依リモ紛争ヲ解決スルコト能ハサルニ至リタルトキハ、締約國ハ、其ノ相互間ノ協定ニ基キ、右紛争ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スルコトニ決シタルヘシ又ハ決スヘキ場合ヲ除キ、之ヲ仲裁裁判ニ付託スルヘシ。

第二二條 裁判 事件ヲ常設國際司法裁判所ニ付託シタ

ル場合ニ於テハ、該事件ハ、同裁判所規程第二七条ニ規定スル条件ニ依リ之ヲ裁判スヘシ。

仲裁裁判ニ付シタル場合ニ於テ、当事国力別段ノ決定ヲ為ササル限り、各当事国ハ、一名ノ仲裁裁判官ヲ任命シ、右仲裁裁判官ハ、仲裁裁判所ノ第三ノ裁判官ヲ選定スヘク、又右仲裁裁判官ノ意見一致セサルトキハ、常設国際司法裁判所規程第二七条ニ掲グル交通及通過事件補佐員ノ名簿中ヨリ国際聯盟理事會之ヲ選定スヘシ。此ノ後ノ場合ニ於テハ、第三仲裁裁判官ハ、聯盟規約第四ノ最終ヨリ第二番目ノ項及第五條第一項ノ規定ニ從ヒ之ヲ選定スヘシ。

仲裁裁判所ハ、当事国相互間ニ一致セル付託条件ヲ基礎トシテ事件ヲ裁判スヘシ。当事国間ニ一致ヲ見ルニ至ラサルトキハ、仲裁裁判所ハ、当事国ノ提出ニ係ル要求ヲ考査ノ上其ノ全員ノ一致ヲ以テ自ら付託条件ヲ作成スヘシ。全員ノ一致ヲ得ルコト能ハサルトキハ、国際聯盟理事會ハ、前項ニ規定スル条件ニ依リ付託条件ヲ決定スヘシ。手續力付託条件中ニ定メラレサルトキハ、仲裁裁判所之ヲ定ムヘシ。

仲裁裁判ノ進行中、付託条件中ニ反對ノ規定ナキ限り、國際法上ノ問題又ハ本規程ノ法律の意義ニ関スル問題ニシテ仲裁裁判所カ当事国中ノ一國ノ請求ニ依リ其ノ解決ヲ以テ紛争解決上必要ナル前提ナリト宣シタルモノハ、当事国ニ於テ之ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スルノ義務ヲ有ス。

第二三条 (同一主権国の部分間の権利義務) 本規程ハ、同一主権國ノ部分ヲ構成シ又ハ其ノ保護ノ下ニ置カラルル地域相互間ノ權利及義務ニ付テハ、此等ノ地域カ各別ニ締約國タルト否トヲ問ハス、何等ノ規律シタルモノト解釈スヘカラサルモノトス。

第二四條 (聯盟國の権利義務) 前諸条ハ、何レモ國際聯盟ノ聯盟國トシテノ締約國ノ權利又ハ義務ニ何等影響ヲ及ボスモノト解スヘカラス。

(附屬書及び署名議定書略)